

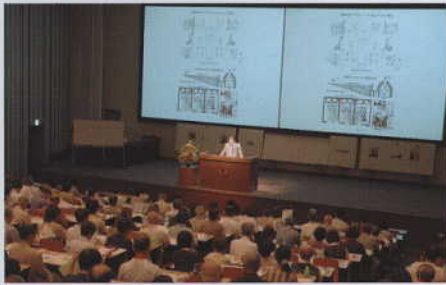
## ◆ 博物館だより

◇平成20年度春季企画展「天目<sup>そら</sup>への誘い<sup>いざな</sup>—木村盛康陶芸展—」を4月1日から5月18日まで開催しました。期間中、4,113名の入場者があり、盛況のうちに終了できましたことを厚く御礼申し上げます。本展は、現代の陶芸界にあって天目釉の第一人者である木村盛康先生から、関西大学へ陶芸作品の数々をご寄贈いただいたことをうけて、特別に公開したものです。



また、5月10日には、「天目の魅力」と題して、木村先生からご講演をいただきました。当日は、木村先生による菊ねり（陶芸作業のひとつ）の披露もあり、そのあざやかな手さばき一同ひきつけられるように見入りました。

◇高松塚古墳壁画再現展示室の竣工を記念して、関西大学博物館講演会「高松塚古墳壁画を探る」を7月5日（土）に開催しました。368名の聴講者が、米田文孝先生（文学部教授）と来村多加史先生（奈良文化女子短期大学教授）の、高松塚古墳壁画にまつわる話に聞き入りました。また、この講演を機会に、考古学研究室所属の大学院生が、先生方の指導の下、色鮮やかな高松塚古墳壁画を復原し、本館ではその原図をもとにパネルを作成しました。このパネルは、講演会にあわせて6月23日から7月28日まで開催した博物館小展示会「高松塚古墳壁画の発見」で展示しました。小展示会には782名の入場者がありました。



◇平成20年度ミュージアム講座の開催

7月12日から毎土曜日に3回「関西大学ミュージアム講座」を開催しました。総合テーマを「なにわの文化遺産（三）」として、のべ105名の受講者がありました。

7月12日「近世後期大坂の出版文化」

関西大学文学部教授 山本 卓

7月19日「伝統野菜の今日的意義—知っていますか、なにわの伝統野菜—」

元 大阪府立食とみどりの総合技術センター主任研究員 森下 正博

7月26日「浪速の町絵師—菅橋彦の画業とその社会的背景—」

芦屋市立美術博物館学芸課長 明尾 圭造

◇平成20年度博物館なんでも相談会を8月1日と2日に実施しました。今年で第5回目となる相談会は、ここ数年地域の小学生や住民の方がたを対象に、体験を重視したイベントを中心に実施しています。開催を楽しみにしてくれる参加者も増え、2日間でのべ511人の参加がありました。また2日目には紙芝居の口演があり、大人も子供も水あめ片手に昭和の気配色濃い紙芝居を堪能しました。



## ．．． 編集後記 ．．．

『阡陵』第57号をお届けいたします。今号は、井溪 明氏（本学非常勤講師）、熊 博毅氏（学術センター次長）、松永友和氏（なにわ・大阪文化遺産学研究中心研究員）、田村唯史氏と福井英行氏（両名ともに文学研究科博士課程前期課程）に寄稿いただきました。ご執筆くださいました皆様方に感謝申し上げます。

表紙写真は、木村盛康先生作の天目アンドロメダ茶盤です。今春の企画展では、宇宙の深遠を表現したこの茶盤に魅せられた方も多かったのではないのでしょうか。